

OERサイジングのガイドライン

OERインスタンスにとって最適な構成を決定するためのガイドラインを以下に示します。

- OERは64ビット・アーキテクチャで最大の性能を発揮します。** OERは、本質的には1つのJavaプロセスです。64ビット・アーキテクチャでは、プロセスはシステムのメモリ容量で制限され、JDKがよりチューニングしやすくなります。そのため、アプリケーション・サーバーで利用可能なメモリ容量は大幅に増加します（このメモリ容量には、アセットが読み込まれるキャッシュも含まれます）。
- 仮想化環境を実際のハードウェアと同じように扱って、環境のサイジングを行います。**
- 最小構成**
 - 64ビット・アーキテクチャ
 - アプリケーション・サーバー
 - WLS 12.1.3.0.0
 - アプリケーション・サーバーで利用可能な最小RAM：2GB（予想されるEnterprise Repository内のアセット数によって異なります）。
多数のアセットを作成し、複雑なタクソノミを利用すると、多くのメモリが消費されます。
 - アプリケーション・サーバーの初期ディスク領域使用量：2.5GB
 - 最小CPU速度：1.8Ghz（推奨：2.4Ghzのデュアル・コア・プロセッサ）
 - アプリケーション・サーバーおよびデータベース・サーバーへの接続用の最小ネットワーク速度：100Mbit（推奨：1Gbit）
- 最大構成**
 - 64ビット・アーキテクチャ
 - 複数のCPUクラスタ
 - 独立した開発/テスト環境
- 一般的なデータベース構成**
 - Oracle 12cを使用
 - データ用：20MB（BLOBデータを含む）
 - 索引用：20MB
 - データベース・ドライブのサイズに関する経験則として、10万の表と索引（1.1GB）に対して、その10倍の物理表領域と索引サイズを設定します。つまり、データベース・ドライブ領域に10～11GBを確保します（DBAによるドライブの構成方法によって、このサイズは変動します）。
 - 適切に構成されたデータベース・サーバーには、ディスク使用率を最適化できる十分なドライブがあります。オラクルのパフォーマンス・テストでは、OER用のデータベース・サーバーに6台のドライブを使用しています。
 - 注：**OERはHA構成のデータベースではテストされていません。

6. **OER設計は、もっとも重要なパフォーマンス要因の1つです。**以下の項目がパフォーマンスに影響を及ぼす可能性があります。

- アセットの数（OERは、数十万のアセットを容易に保存できますが、GUIの利用において一部の制限があります）
- アセット・タイプの数
- ネストされたタクソノミ（複雑なタクソノミはパフォーマンスに大きな影響を及ぼす可能性があります、言うまでもなく、アセット利用者のユーザビリティも低下させます）
- リレーションシップの数
- アクティブ・ユーザーの数

ライセンス販売担当は、サンドボックス環境、本番環境、そして場合によっては開発用のインスタンスとして、2～3個のOER環境を用意することを推奨しています。